あなたの「やってみたい」を応援します!!

ゆめこらぼ通信

第16号
発行
平成23年12月1日
（隔月発行）

「ゆめこらぼ」は、コラボレーション（協働）によって夢を広げ、夢があふれる空間をめざします
発行：西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ　〒188-0012　東京都西東京市南町5-6-18　イングビル1階

大震災とフクシマ

私たちはこう動いた

市民活動を語る集い

「大震災とフクシマ」をめぐる市民活動を語る集い（ゆめこらぼ主催）は11月19日（土）、イングビルで開かれ、被災者支援や原発・放射能問題に取り組む17人が参加しました。

話題を提供してくれたのはＮＧＯシャプラニール＝市民による海外協力の会の小松豊明さん＝写真下・中央＝と子育て分野の市民活動団体「Mamma Mia ＋（マンマミーアプラス）」の宇野愛子さん＝写真右。

避難者の交流スペースを開設

小松さんは3月中旬から福島県いわき市で活動しています。被災家屋の片付けやがれきの撤去などいろいろある作業とボランティアの希望を災害ボランティアセンターで調整したり、避難先の約１千世帯に鍋や包丁などの調理器具セットを届けたりしてきました。

避難者から「話し相手がいない」「情報が届かない」との声を聞き、最近、いわき駅前のビルに交流スペース「ぶらっと」を開設して手芸教室や無料健康診断などを行っています。ここにはシャプラニールの3人が常駐するほか、避難者も含む地元ボランティアも随時活動に加わってくれるそうです。12月には同施設での活動や子どもの遊び場などを紹介する情報紙も発行します。

大きく広がったママ友の呼びかけ

宇野さんの団体は、自然の中で子どもたちが思い切り遊べる機会を作ろうと、市と協働して「西東京プレーパークキャラバン」という事業に取り組んでいます。3月下旬、その準備と並行して、おもちゃや絵本を避難所の子どもたちに送ろうとブログ、メールなどで呼びかけたところ、正味1日半で、期待を大きく上回る260世帯からおもちゃが2トントラック約3台分、絵本など約3000冊が向台公園に集まりました。

物資は市内外のボランティアの手で仕分けしたうえ、おもちゃは年代、男女、ジャンル別に、絵本はテーマごとにそろえて箱詰め。マッチングサイトを利用してニーズのある避難所を探し、企業やＮＰＯの協力を得て4月中旬から送りました。支援活動は今後も継続し、今度はクリスマスの飾りを作って送ることにしています。

また、9月から10月にかけて、西東京市社会福祉協議会から岩手県陸前高田市の災害ボランティアセンター運営支援に派遣されていた関野大樹さんが現地での仕事や様子を報告。「自治会の力によって支援物資の量が違うようだ」「他市に引っ越す人が多く、雇用をいかに作り出していくかが課題」などと印象を語りました。

このあと、いわき市の児童クラブの40人を東京ディズニーランドに招待したＮＰＯ法人子どもアミーゴ西東京や物品収集や番組で支援キャンペーンを続けるエフエム西東京、避難者同士の交流会を始めた西東京市社会福祉協議会などから、これからも息長く支援活動と取り組んでいく意気込みが語られました。

原発事故による放射性物質の汚染問題では、西東京市で食品や給食の安全を守る市民活動に対して市民の反応が複雑であることへの戸惑い、避難してきた子どもへのいじめを心配する声などが出ていました。

トークサロン

＜路地裏の人権＞
「他者に思いをはせる」実践を

ゆめこらぼ主催の第3回トークサロンは11月9日（水）、「『路地裏の人権』を考える」と題してゆめこらぼサロンコーナーで開かれ、9人が参加しました。

『路地裏の人権』の著書がある元全国紙記者で財団法人人権教育啓発推進センター理事の田中正人さんが話題を提供してくれました。田中さんは、「人権」は難しい学問ではなく、路地裏のようにいつも身近で一緒にあるものだとして、混雑した場で携帯電話を使いながら歩いている人、かさの先を後ろの人に向けて持っている人、高齢者をはねとばして電車の座席に座った若者グループなどを引き合いに、「人の存在や意志に思いをはせることが人権の実践です」と強調。本を書いた約20年前よりも状況は悪くなっており、「文明の退化ではないか」と憂いました。雑踏の中に高齢者がいると、直後を同じ速さで歩いて守るなど、自身の実践も話しました。

＜子どもの虐待＞
解決はばむ「個人情報保護」

ゆめこらぼ主催の第４回トークサロンは、11月16日（水）、「子どもの虐待を考える」というテーマで開かれました。参加者が21人と定員を上回ったため、急きょ会場をゆめこらぼサロンコーナーからイングビル３階の会議室に移しました。

児童虐待防止全国ネットワーク理事長で駿河台大学法学部教授の吉田恒雄さんが、児童虐待の現状やその背景、さらには児童虐待防止に向けての市町村の役割などについて、わかりやすく話題提供してくれました。

参加者のなかには、児童相談所に長年勤務した人をはじめ主任児童委員や民生委員など児童虐待問題に日頃関わっている人もいて、吉田さんとの意見交換ではかなり専門的な質問に及ぶこともありました。また、関係者や関係機関が連携して問題解決にあたろうとする際、情報共有化がなかなか図れない実態があり、背景の一つに「個人情報保護」が足かせになっているとの指摘もありました。

◆お知らせ　第5回トークサロンは「市民活動におけるソーシャルメディア活用法」と題し、田無ソーシャルメディア研究会の原田光久さんからツイッターやフェイスブックなどを市民活動にどう生かすかを聞き、語り合います▼1月27日午後7時～8時30分、ゆめこらぼサロンコーナー（申し込みは1月26日まで）▼定員15人

環境、社会、人権は…　問われる企業価値

ゆめこらぼ主催の「企業に聞く会」は10月14日（金）、イングビルで開き、損保ジャパンＣＳＲ・環境推進室長の酒井香世子さん＝写真右＝から企業の社会的責任（ＣＳＲ）の最新事情や同社の取り組みなどについて話していただきました。市民活動団体やＮＰＯ法人、企業などから16人が参加しました。

納税や社員の雇用、株主への配当を考えることこそ企業の社会的責任ではないか。それ以上は行政の仕事だったりＮＰＯに任せたりすればよいのではないか。企業のイメージアップ作戦ではないか―。ＣＳＲ活動をめぐるこうした見方や疑問に対し、酒井さんは環境や社会に配慮しているかで企業価値が問われ、国際的なガイドラインもできていることを説明。近年は「人権」が先進国の主要課題の一つになっているそうです。

同社のＣＳＲは、1990年代初めに金融機関初の地球環境室を設置したことから東日本大震災の被災地支援まで多くの具体例が述べられました。西東京市内にある事務本部では、社員のスキルを生かした身体障害者向けパソコン教室のほか、献血、公園清掃などが継続して行われています。

参加者のほぼ半数はＣＳＲという言葉を聞いたことがあり、「震災後は子育て支援関係で企業の寄付集めが難しくなった」と酒井さんに助言を求めたり、社員の社会貢献ファンドなどについて質問したりして、より理解を深めました。

あなたの団体もフェスティバルに参加を！！

縁（えん）～このまちでつながる～

申し込み 12 月 14 日まで

ゆめこらぼは、来年 2 月に開く「2012 NPO 市民フェスティバル」の参加団体を募集しています。

NPO 市民フェスティバルは、NPO や市民活動団体が相互に交流を深めるとともに、団体に参加していない市民の方々にも活動ぶりを知っていただこうというものです。

本年度は来年 2 月 12 日（日）、南町スポーツ・文化交流センターきらっとで開催し、ステージでの発表や写真などによるパネル展示などを行っていただきます＝写真は前回の準備風景。

このフェスティバルは 2010 年に始まり、今度が 3 回目。第 1 回は 29 団体、第 2 回は 36 団体が参加しました。活動分野はまちづくり、環境保全、子どもの健全育成、社会教育、国際協力、福祉など多岐にわたります。来年の開催に向けては大学生を加えた実行委員会をつくり、副題を「縁（えん）～このまちでつながる～」として準備を進めています。

参加申し込みは 12 月 14 日（水）まで、ゆめこらぼで受け付けています。申し込まれた団体への事前説明会は同 16 日（金）午後 6 時から 1 時間半ほど、イングビル 3 階会議室で行います。

申し込みは電話、ファクス、または E メールを使い、①団体名・担当者名（ふりがな）②住所③電話番号－をお知らせください。

☆助成金情報☆

（ゆめこらぼのホームページに新しい助成金募集情報が追加されている場合があります。また詳しい内容については各助成団体のホームページをご覧ください）

◆日本社会福祉弘済会平成 23 年度社会福祉助成事業
【対象】社会福祉事業や福祉施設の運営、福祉活動などを目的とする社会福祉法人、福祉施設、福祉団体などが行う社会福祉関係者の研修や調査・実践研究
【助成金額】助成対象項目経費合計の 80%以内かつ 50 万円以内
【応募期限】12 月 15 日（木）
【問い合わせ先】日本社会福祉弘済会助成事業係（電話 03・3846・2172、ファクス 03・3846・2185）

◆財団法人ＪＫＡ平成 23 年度東日本大震災復興支援補助（第２次）
【対象】NPO法人、学校法人、社会福祉法人、更生保護法人、財団法人、社団法人などが行う被災地域および被災者受け入れ地域における支援拠点づくり活動、生活支援活動ほか
【助成金額】1事業 300 万円以内（予算総額1億円）
【応募期限】第1回：12 月 19 日（月）、第 2 回：1月 31 日（火）
【問い合わせ先】財団法人JKA補助事業グループ公益・福祉振興チーム（ファクス 03・3512・1277、メール fukkou23-2yobo@keirin-autorace.or.jp）

◆タイガーマスク基金
【対象】児童養護施設で生活する児童を支援している団体および児童養護施設を退所した児童の自立を支援している、法人格を有する団体
【給付金額】1 団体につき最大 50 万円
【応募期限】12 月 31 日（土）
【問い合わせ先】タイガーマスク基金運営事務局＝ファザーリング・ジャパン内（電話 080・6810・5215、ファクス 03・6902・1695、メール tiger@fathering.jp、http://www.tigermask-fund.jp/）

◆地域づくり団体活動支援事業
【対象】地域づくり団体全国協議会に登録している地域づくり団体が、講師などを招いて開催する研修会等
【助成金額】1団体につき上限 20 万円で助成対象経費の 100%以下
【応募期限】12 月 31 日（土） 予算額に達し次第、受け付けを終了する
【問い合わせ先】地域づくり団体全国協議会ホームページから（http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/dantai/dantai.htm）

◆人材育成活動への助成事業
【対象】大学生を中心に大学院生・高校生を対象とした人材育成を目的とした活動・プログラムを行う非営利団体（NPO法人、大学学内公認組織などで、設立から 2 年以上の活動実績があること）
【助成金額】年額 50 万円（上限）枠と 100 万円（上限）枠。各5件以内（計 10 件以内）
【応募期限】2012 年 1 月 10 日（火）
【問い合わせ先】公益財団法人電通育英会事務局（電話 03・3575・1386、ファクス 03・3575・1577、メール josei@dentsu-ikueikai.or.jp）

◆環境ＮＰＯ助成
【対象】NPO法第 10 条の規定に基づき設立された国内の法人、または3年以上の実践活動歴を有する国内の任意団体（再委託や第三者の活動支援を主たる目的とする活動は除く）で、「環境と経済との調和」（地球温暖化問題など）または「環境と科学技術との調和」（自然エネルギーの活用等）に資する活動
【助成金額】1件当たり上限 150 万円（数件を予定）
【応募期限】2012 年1月 20 日（金）
【問い合わせ先】公益財団法人日立環境財団（電話 03・3257・0851、ファクス 03・3257・0854、メール kankyo@hdq.hitachi.co.jp）

◆こども未来財団コンサート・講演会等託児室支援事業
【対象】コンサート、講演会、シンポジウム、研修会、講習会などの実施時間中に臨時の託児室を設置運営する主催者
【助成金額】1 日当たり、保育担当者の雇い上げ経費や託児室借り上げ料などの合計額と 10 万円を比較して少ない方の額
【応募期限】2012 年 2 月 10 日（金）
【問い合わせ先】こども未来財団事業振興部（電話 03・6402・4823、メール concert@kodomomiraizaidan.or.jp）

登録団体 76 に

ゆめこらぼに登録していただいた市民活動団体・NPO法人の合計は、11 月 28 日現在で 76 に達しました。

今年度に入ってからの新規登録は 26 団体で、すべて任意団体です。活動分野別では、「子どもの健全育成」が最多で 13 件、次いで「まちづくり」10 件、「環境保全」9 件、「人権擁護・平和推進」6 件、「社会教育」「学術・文化・芸術・スポーツ」「経済活動の活性化」「市民活動支援」各 5 件などとなっています（複数回答）。

ゆめこらぼでは引き続き、新規登録をお待ちしています。登録されると、①センター内のメールボックスが使えることにより、仲間同士で文書などの受け渡しや郵便物の受取先とすることができる②サロンコーナーと印刷機の利用予約ができる③ゆめこらぼホームページ上で、自分たちのイベント情報を告知したり報告したりできる――などのメリットがあります。

登録手続きは簡単ですので、気軽にお尋ねください。これから活動を始めようという方には、会則の見本などをお見せして、団体立ち上げの支援をします。

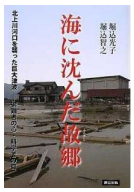
―新たな登録団体―

（9～11 月。かっこ内は団体の目的）

▼西東京市に放射線測定室をつくる会（西東京市に食品の放射線測定室をつくるよう市、市民に呼びかける。放射線測定等の勉強会を行う）**▼守ろう平和憲法・西東京の会**（憲法改悪阻止の一点で思想信条の違いを越えて協働し運動します）**▼平和・民主主義・革新の日本をめざす西東京の会＝略称・西東京革新懇**（国民が主人公の国政、地方政治をつくるため、生活向上、民主主義、平和の三つの「共同目標」に基づいて、国民的共同をすすめる）**▼２０１２ママイキ西東京実行委員会**（2012 年 1～3 月に「ママのイキイキ応援プログラム」、通称・ママイキを開催する）**▼いこいの森ＣＢ**（西東京市の「暮らしやすいまちづくり」の実現と発展に寄与する）**▼西東京マジッククラブ**（会員相互の親睦をはかりつつ、レクリエーション活動を通じて様々な社会活動を提案してゆく）**▼田無ソーシャルメディア研究会**（ソーシャルメディアツールを介した地域発の情報によるマーケティング＆コミュニケーション機会創造、地域社会でのネットワーク創造、地域産業および伝統文化振興の可能性について、実証実験型のプロジェクト等を展開することにより、地域社会活性化に寄与する）**▼原発汚染から給食をまもる西東京市民の会**（原発事故による放射線被害から子どもたちを守ることを共通のテーマとして、子どもたちがいつまでも健康で安心して暮らせるための条件を整備するために努力し、自主的な活動を行う）**▼西東京市環境サポーターはちどりの会**（環境問題に関する情報交換や学習、啓蒙活動を行い、地域社会の環境保全の増進に寄与する）**▼ＴＨｉＮＫ**（子育てをキーワードに市内の情報周知や団体同士の横のつながり、世代交流、エコ活動の浸透を目指す）**▼べいてぃ～ず**（母親の権利と子どもの幸せのために、子育てに関わる全ての人のための支援を行うことを通して、広く市民生活を向上させる）**▼西東京市文化芸術振興会**（西東京市の文化活動を振興し、文化の薫り高い街づくりを目指す）

みんなの本棚

海に沈んだ故郷



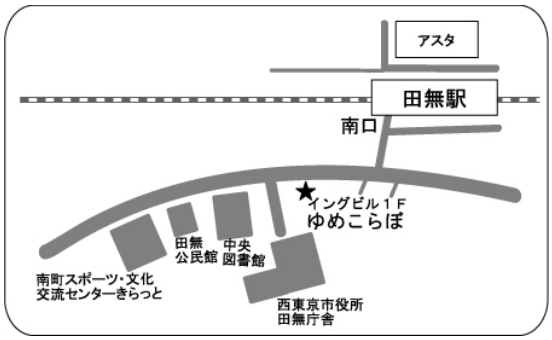
堀込光子、堀込智之<著>
連合出版／1890 円

宮城県石巻市の北上川河口に住んでいた元教師夫妻の地震・津波被災体験記である。夫妻の住居があった場所は１㍍近い地盤沈下で土地そのものが海に沈んでしまった。

本書前半は、三日三晩眠らずに過ごし救出されるまでの体験記録や、過酷な状況のなかで寄せられる温かい思いやりの数々が、元小学校教師光子さんの人柄がにじみ出るような柔らかな筆致で描かれている。読み進むなかで、評者の目頭が熱くなることしばしばであった。

後半は、津波研究者で元県立高校教師の智之さんが、科学者の目で河口周辺での津波の振る舞いを自らの足で精緻に調べ上げてリポートしている。巻頭に添えられた被災写真 80 余点や津波のメカニズムの説明、さらには研究者ならではの水槽での津波実験結果もあり、読者には大いに参考になる。

いつ起きるか分からない次なる巨大地震と津波。このたび犠牲になった多くの方々の命を無駄にしないためにも、本書がぜひとも広く読まれることを願う次第である。　（西口　徹）



開館日：水～月（10 時～21 時）土・日・祝日オープン
休館日：火曜日（祝日の場合は開館し次の平日に休館）・年末年始
〒188-0012　西東京市南町 5-6-18　イングビル 1 階
西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ
Tel: 042-497-6950　　FAX: 042-497-6951
E-mail: yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp
URL: http://www.yumecollabo.jp/